

令和7年度

臨床研修医をこころざす皆さんへ



地方独立行政法人神戸市民病院機構

神戸市立医療センター西市民病院

臨床研修医を目指す医学生たちへ

今、君たちは学生生活の最終コーナーを走っています。最後の関門である国家試験に合格しゴールを切れば、晴れて初期臨床研修医となり、いよいよ医師としてのスタートラインに立ちます。

神戸市立医療センター西市民病院は地方独立行政法人神戸市民病院機構の一翼を中央市民病院、西神戸医療センター、神戸アイセンター病院とともに担い、神戸市市街地西部の中核病院、さらには地域医療支援病院として、全日24時間体制の救急医療はもとより、質の高い標準治療、先進的な医療を患者さんに提供しています。

当院は病床数358床、28診療科からなり、専門医資格、指導医資格を持つ多数の医師を配し、数多くの診療領域で研修病院に認定・指定されています。初期臨床研修において最も大切なことは適切なプライマリーケアを習得することです。特に初期対応を誤れば重篤な転機を取りかねない疾患、病態に対して迅速・的確に初療を行う能力を養うことが重要です。この点に関して当院は豊富で多彩な救急・非救急の急性期症例、充実した指導体制、そして臨床研修評価機構の認定を受けた体制・設備を有し、諸君の期待に十分沿えるものと思います。

さいわい、例年フルマッチで初期研修医を迎えています。これに満足することなく、研修体制をさらに充実させ、高い診療能力と豊かな人間性を有する医師・歯科医師を育てるべく、全職員が力を尽くす所存です。

今年も志の高い医学生諸君が多数応募されることを心から願っています。



神戸市立医療センター西市民病院

院長 中村 一郎

目 次

■ はじめに	1
■ 基本理念	2
■ 基本方針	3
■ 診療部門	4
消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、 総合内科、脳神経内科、外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科、 脳神経外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神・神経科、整形外科、皮膚科、 泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、歯科口腔外科	
■ 病棟・中央医療部門等	14
病棟	
中央医療部門	
放射線技術部、臨床検査技術部、手術部、集中治療部、血液透析センター、 薬剤部、栄養管理室、リハビリテーション技術部	
■ 臨床研修協力施設	18
■ 救急診療部門	20
■ 地域医療部門	20
■ 臨床研修の内容及び条件	21
■ 資料	22
診療科別医師一覧表 令和 5 年度診療状況	
■ おわりに	24
医科研修医の一日 歯科臨床研修のご案内 先輩の声 病院見学のご案内	

はじめに

神戸市立医療センター西市民病院は、市立病院群の一翼を担って、昭和28年開院後、神戸市（主として、長田区、兵庫区、須磨区の3区）の地域中核病院として重要な役割を果たしてまいりました。しかし、平成7年の阪神・淡路大震災により本館が倒壊し、医療活動を最小限にしか展開できないという苦難の道を歩きました。地域住民と、病院職員の病院復興を願う熱い要望で、平成12年、『災害に強く、安全で、質の高い、心のもった医療を提供する。』ことを基本理念に掲げて、再建され、今日に至っております。

平成13年度において、再度、新たに臨床研修指定病院の指定を受け、平成14年度より臨床研修医の採用を開始。また、平成15年度からは新臨床研修制度に伴いマッチングシステムによる研修医の採用を行い、同時に後期研修医（専攻医）制度を確立致しました。

本院は、ベッド数358床（HCU 7床、救急 13床を含む）で、診療科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、臨床腫瘍科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科、精神・神経科、リハビリテーション科、病理診断科で構成されており、各科とも非常に優秀な指導医がいますので、プライマリーケアを習得する初期研修に最適な環境を備えていると言えます。

病院の基本方針として、患者中心の、安全管理を徹底したチーム医療を推進して、高度医療・救急医療・災害時医療に重点を置くと共に、今後のさらなる高齢者社会をみすえて、高齢者総合診療科（現総合内科）をいち早く立ち上げ、高齢者医療の充実と地域連携室を通じた地域との連携を密にした在宅医療を積極的に支援しており、平成25年11月地域医療支援病院としての名称承認も受けております。これらの点も、初期研修の密度を濃くする体制であると自負しております。

研修プログラムは、救急病棟・HCU、救急外来を通じての急性期疾患への初期対応や、救急治療をはじめ、内科、外科、麻酔科、産科、小児科、精神・神経科、院外施設（地域医療、精神・神経科）での実践的なカリキュラムが作成されています。また、三次救急等を連携病院である神戸市立医療センター中央市民病院で研修することになっています。

当院では、コンパクトな体制の中で、充実した臨床研修の反復と蓄積が可能であり、医師として第一歩を踏み出される諸君にとって極めて有意義な病院であると考えております。

職員一同、当院研修医への応募を歓迎しております。

基 本 理 念

神戸市立医療センター西市民病院は

地域の中核病院として市民の生命と健康を守るために

安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

(平成19年6月1日改訂)

基本方針

1. 患者さんの人権を尊重し、
患者中心のチーム医療を推進します。
2. 医療安全体制の充実を図り、
患者さん及び職員の安全確保に努めます。
3. 救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
4. 高度・専門医療を充実させ、
市民病院として地域医療に貢献します。
5. 地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
6. 医療従事者の職務の研鑽を深め、
医療水準の向上に努めます。
7. 職員の経営参画意識を高め、
病院の健全な財政運営に努めます。

(平成30年12月3日改訂)

診療部門

消化器内科

当科は、スタッフ10名、専攻医2名の12名体制で、消化管から肝胆膵を含めた幅広い分野を扱っています。日本内科学会指導医・専門医・認定医8名、日本消化器病学会指導医・専門医6名、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医6名、日本肝臓学会専門医5名を有し、消化器病学会認定施設、消化器内視鏡学会指導施設、肝臓学会認定施設に認定されています。

標準的治療がどの患者にも行える診療体制を採っており、中規模病院ですが大病院と同等の診断治療を行える環境が整っています。平成21年度からは小腸内視鏡やカプセル内視鏡も導入しており、あらゆる内視鏡診断治療を積極的に行える体制を整えています。

夜間の消化管出血等の緊急内視鏡検査からPEGの造設・交換、また早期癌の早期発見・内視鏡治療に至るまで、地域の中核病院として十分な役割を担っており、消化器内科としては十分量の症例を経験できる環境にあります。

コミュニケーションも良好で、研修医に対しても“熱き”指導をモットーにしており、是非当院での研修を薦めます。



呼吸器内科

呼吸器内科は、現在スタッフ9人、専攻医3名で担当しております。

当科は、地域の呼吸器疾患の基幹病院として、肺炎をはじめとする感染症、肺癌を主とする腫瘍性疾患、喘息をはじめとするアレルギー性疾患、COPDや間質性肺炎などの呼吸不全、さらには睡眠時無呼吸症候群など、多くの呼吸器疾患に対応しています。

常にチーム医療、EBM（科学的根拠に基づいた医療）に根ざした医療を心がけており、呼吸器外科とのカンファレンスを通じて、外科との連携も緊密に行っています。

日本呼吸器学会、アレルギー学会、感染症学会、結核・非結核性抗酸菌症学会、肺癌学会をはじめとする学会活動もさかんです。

豊富な症例と指導熱心なスタッフのもと充実した研修を期待してください。



循環器内科

循環器内科は日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設として、循環器疾患の診断と治療を広範囲に経験できるように考慮しています。現在スタッフは4名です。

循環器内科に特有な病歴聴取、理学的所見の取り方やその実践的秘訣が習得できます。

各種非侵襲的画像診断法（胸部レントゲン、64列MDCT、MRI、経胸壁心エコー図、経食道心エコー図等）における検査支援と読影の習得ができます。

また、観血的検査法（冠動脈造影、心血管造影、電気生理学的検査、心筋生検など）の読影や解釈の基礎を学べます。HCUにおける重症患者の管理、Swan-Ganzカテーテルによる血行動態モニター、IABPやPCPSによる体循環保護法についてもその基礎を学ぶことができます。

希望すれば観血的治療法（インターベンション治療、ペースメーカーなど）を含めた治療計画の立案と実践が学べます。

循環器内科に興味をお持ちの方は、気軽に御相談ください。



腎臓内科

現在当科は専門医5名、スタッフ1名で診療を行っております。

慢性腎臓病の教育入院や維持血液透析の管理などの慢性期疾患から、ネフローゼ症候群や血管炎、緊急血液透析などの急性期治療や、集中治療領域における電解質管理や血液浄化など幅広い分野を扱っています。

腎臓は全身を映す鏡と言われているように、腎臓は心血管疾患や血液疾患、膠原病などをはじめとした様々な疾患と関係します。そのため腎臓内科を勉強することで幅広く内科・外科の知識が自然と身に付きます。

透析学会や腎臓学会をはじめとした学会にも積極的に参加・発表を行っています。チャンスがあれば研修医の先生も学会で発表できるようサポートします。

その他、腎臓内科での研修中は、その後の診療に役立つよう血液ガスの読み方や電解質異常の見方などのレクチャーを行っています。

意義深い研修となるようサポート致しますので、腎臓内科に興味のある方は是非当院での研修をご検討下さい。



糖尿病・内分泌内科

当院の糖尿病・内分泌内科は、日本糖尿病学会認定教育施設および日本肥満学会認定肥満症専門病院であり、生活習慣病に関する専門的な研修が可能です。糖尿病・脂質異常症などを中心とした代謝性疾患及び甲状腺を中心とした内分泌疾患の診療を主に行っています。

当科では個々の患者さんの病態を検討してそれぞれの方にあった治療方針を決定していきます。療養指導については糖尿病専門医と糖尿病療養指導士の資格をもった看護師、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、理学療法士、臨床検査技師、視能訓練士、事務からなるチーム体制にて患者さんをサポートしていきます。

また糖尿病の多彩な合併症についても各科と協力のもと各分野の専門家による診療を行っています。糖尿病・内分泌内科でチーム医療の重要性を学んでください。



総合内科

総合内科とは一体、どんな内科だろう。

「内科各科の隔てなく、外来と入院両方の患者を総合的に診ることができる内科。」といえは実に模範的な解答。平たくいえば立ち位置を定めず「何でも診る・丁寧に診る・一緒に考える・教える。」ということです。この理想のもとにスタッフ4人で診療に当たっています。

具体的に本院で総合内科が担当する患者さんは以下のようにになりますが、現時点では各専門内科の先生方の御協力のもと内科全体で診療に当たっています。

①診断がついていないために担当科を確定できていない患者さん

病態の究明を進め担当科が確定すれば病院内外の専門科に紹介し引き継ぎます。

②担当科が特定できない症候を有する患者さん

本院内科専門科（脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 循環器内科 腎臓内科 糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科）のいずれにも当てはまらない方。

③担当科が複数にわたり主たる治療科が特定できない患者さん、担当すべき専門科が複数にわたる場合は主治医として担当し各専門科間の調整役を担います。

④内科以外の他科入院中に担当分野以外の問題を生じた場合は担当科の依頼を受け共に診療に当たります。

⑤リウマチ・膠原病内科の入院患者さん、血液内科の入院患者さんは、担当医として併修します。

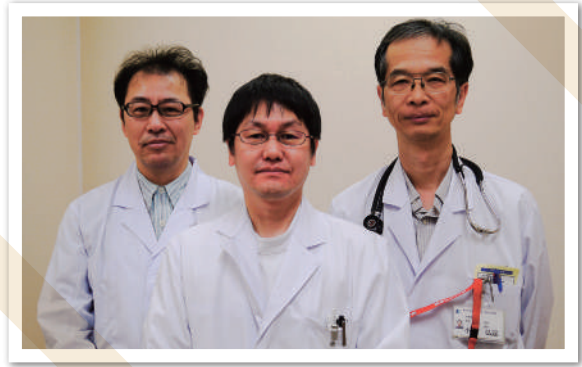


脳神経内科

脳神経内科では年間約200例の入院患者があります。そのうち、脳卒中は約100例となります。

脳血管障害を中心として、脳炎・髄膜炎、ギラン・バレー症候群、痙攣発作、意識障害等の神経疾患救急の入院が多い一方で、神経変性疾患進行期の患者での嚥下障害に対する胃瘻造設やレスピレーター導入などがあります。

急性期から慢性期疾患の対応まで幅広く研修ができます。



外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科

当院外科は消化器外科・呼吸器・乳腺・末梢血管を対象分野とし、消化器外科11名、呼吸器血管外科3名、乳腺2名で診療をおこなっています。癌診療が中心ですが、手術のみならず周術期管理や化学療法・緩和医療なども行っており、また良性疾患（胆石症・ヘルニアなど）や緊急手術など多岐に渡る疾患の診療機会を経験する事が可能です。

令和5年の総手術件数は1079件、内鏡視下手術628件（内ロボット支援下手術97件）と積極的に低侵襲手術を導入しており、初期研修医から担当医として先端の診療に関わって頂きます。また、後期研修医（専攻医）には執刀医としての技術習得のために良性疾患から悪性疾患まで積極的に執刀経験を積んで頂きます。また、ロボット支援下手術の参加、術前手術適応などの評価能力、高難度症例の周術期管理、実際の手術操作・手技を外科医として十分な知識・技量を習得してもらえ、段階を踏んで指導しております。

当院は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本呼吸器外科学会・日本乳癌学会指定施設であり、専門医制度に必要な単位を修得する事が可能です。

消化器外科専門医・指導医、呼吸器外科専門医、乳癌専門医・指導医、内視鏡外科技術認定医、肝胆膵高度技能専門医、内視鏡外科学会ロボット支援手術認定プロクターなどの資格を有する経験豊富なスタッフが揃っており、若い先生方の期待に添える熱い指導をお届けします。是非、当院の研修で『外科の魅力』を存分に体感してください。



脳神経外科

2019年10月より、24年ぶりに脳神経外科診療を再開いたしました。常勤医1名で診療を行っているため、当面手術は行わず、外来、入院診療を中心に行っています。当院は1次救急、2次救急を行っているため、脳卒中や頭部外傷の患者さんを中心に、急性期治療を行っています。院内では、脳神経内科と緊密な連携を図り、診療を行っています。

また、当科は日本脳神経外科学会の基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科の研修施設であり、同院のプログラムに従って研修を行います。手術や脳血管内治療については、神戸市立医療センター中央市民病院で研修を行います。

麻酔科

当科では、常勤医5名と専攻医1名で、年間2,500件ほどの麻酔管理を行っています。このうち1割強は緊急症例で、夜間、休日の緊急手術にも24時間体制で対応しています。心臓外科、脳外科の手術はありませんが、それ以外の症例は種類、数ともに豊富です。

当院のHCUでは、主治医が診療の中心ですが、麻酔科は治療面でのアドバイス、技術的支援、ベッド管理などの面で関与しています。

1年次研修医は、麻酔科に2ヶ月間ローテーションし、手術室での麻酔研修を行います。人の命を助けるためには、知識や思いやりだけでなく、技術とスピードも重要です。麻酔科研修では、気管挿管、人工呼吸、動脈カテーテル挿入、腰椎穿刺など、重症患者の管理に必要なさまざまな手技を学びます。これらを適正に、素早く施行できるようになることが研修の目的です。懇切丁寧に指導いたしますので、ご期待下さい。



小児科

令和6年4月現在、5名の常勤医（1名は専攻医）で診療しています。4名が小児科専門医・認定指導医、1名が日本アレルギー学会専門医の資格を持っています。また、非常勤医3名（全員が小児科専門医、1名は日本アレルギー学会専門医）も診療を行っています。

当院の小児科では、一般小児科診療と新生児診療を主体とした研修を行います。

一般小児科診療は、主に急性疾患とアレルギー疾患が対象となります。一次救急及び二次救急に対応（日当直帯の神戸市小児科二次救急輪番も担当）しており、入院症例は各種感染症（肺炎、気管支炎、胃腸炎など）、気管支喘息、川崎病、痙攣性疾患、食物アレルギーが主な疾患で、小児の common disease を研修することが可能です。

最近増加傾向にある食物アレルギーの診療や、アナフィラキシーへの対応も積極的に行っています。また、熱性痙攣やてんかんなどの小児神経内科疾患、先天性心疾患や不整脈などの小児循環器疾患の診療に関しては、神戸大学医学部などから応援医師を招聘しています。それぞれの分野で専門外来を設けていて、特色のある診療を経験できると共に、4枠（半日4回）の外來研修を含め、一般的な小児疾患の診療を研修することができます。

当院産科では、令和5年度に302人の新生児が生まれました。新生児は、小児科医が全例に出生後と退院時の診察を行うので、医学部の実習で新生児をほとんど診られなかった場合でも、小児科研修中に新生児の診察ができるようになります。早産児（在胎35週以降）、低出生体重児の他、新生児黄疸、新生児仮死、呼吸障害、低血糖などが認められた新生児に対しては、小児科入院患者としてスタッフ医師と共に診療に携われます。退院後も、乳児健診で成長や発達の評価を行ったり、予防接種を行ったりして、小児保健分野も経験できます。

医療は細分化が進み、高度な専門性が脚光を浴び、検査や治療法に主眼が置かれ、患者の全体像を診る機会が減っているように思います。小児科は、病気を持つ患児とその家族、心理社会的背景など全人的医療に触れられる一面が残っている科であり、プライマリケアを重視した研修を行えます。スタッフもアットホームな雰囲気です、何でも相談しながら研修ができます。

尚、当院の臨床研修プログラムでは、必修の小児科研修は1か月間と短いため、小児科に興味のある方は、4～5か月（たすき掛けの場合は1か月）ある自由選択期間の全てあるいは一部を、小児科研修に充てることをお勧めします。



産婦人科

地域中核病院の産婦人科として、日本産科婦人科学会認定専門医の常勤医 6 名で診療をおこなっています。医学博士号を取得している産婦人科 20 年以上のベテラン医師 3 名と、後期研修を修了して 5 年目前後の中堅医師 3 名です。元気でやる気のある若い先生を募集しています。当科の方針として、いろいろな資格取得を勧めています。日本産科婦人科学会認定指導医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技師・ロボット技術認定医、臨床遺伝専門医、遺伝診療学会認定医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、手術支援ロボット認定資格 (da Vinci certificate)、内視鏡外科学会技術認定医、などの資格を有しています。分娩件数年間 295 件 (帝王切開術 58 件含む)、手術件数年間 312 件の実績となっています。

婦人科においては、主に内視鏡手術と腔式手術による低侵襲手術に力を注いでいます。良性疾患は可能な限り、腹腔鏡やダヴィンチシステムを用いたロボット支援下手術、子宮鏡手術により行います。また骨盤臓器脱に対する腔式手術も積極的に行っています。悪性疾患の内視鏡手術はこれからの目標で、現在は開腹による悪性腫瘍手術から化学療法まで一貫して行っています。

産科においては、NICU を併設していないため、ハイリスク症例は近隣の周産期センターに母体搬送をしています。総合病院の特性を活かして、糖尿病や精神科などの合併症妊娠の管理に積極的に取り組んでいます。

最近施設認定に力を入れており、産婦人科専門医研修施設、内視鏡技術認定指定病院、ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設の認定をうけました。これから専門医や認定医の資格を取ろうとする若い先生方の応援をしたいと思っています。



精神・神経科

当科は、現在常勤医 1 名・非常勤 3 名の体制で外来中心とした診療を行っています。

特に力を入れているのが、当院に身体的に入院中の方を対象としたコンサルテーション・リエゾン活動です。精神科リエゾンチームを有しており、専門看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・理学療法士など多職種で構成されています。チーム全体の協議を通じて、身体疾患に随伴する心理・精神医学的障害を評価し、様々な精神症状に細かく対応を行っています。専門研修としてせん妄や認知症の診療や対応を極めていきます。

専門の入院病床を持たないため、市内臨床研修協力施設として単科精神病院での研修も並行して行っています。また救急病棟には精神科身体合併症病床を有しており、精神疾患を併存しているかたの緊急性を要する身体合併症に関しては受け入れています。



整形外科

神戸市立医療センター西市民病院の整形外科は「運動器・脊椎外科センター」として地域の医療にあたっています。昨年度は700例以上の手術症例があり、当院の研修で多数の症例を経験することが可能です。救急患者も積極的に受け入れており、緊急手術も多数行っています。救急手術を含む、骨折・外傷の初期治療について十分な研修、技術の習得が可能です。

慢性疾患の治療としては、人工関節置換術、脊椎手術も増加の一途であり、整形外科全般の研修が可能です。

当院の整形外科は一人の患者を最初から責任をもって診ていくことを研修の基本にしています。即ち外来診療→入院手術→外来でのフォローを一人一人が患者さんについて行い、この貴重な症例の体験の中からしっかり自らの整形外科医の知識と経験を蓄積されることを期待しています。



皮膚科

当科は常勤医2名と専攻医1名で診療をおこなっています。兵庫区・長田区における唯一の皮膚科有床病院であり、様々な施設から多数の紹介をいただいています。

緊急症例や重症例も積極的に受け入れており、腫瘍、感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患など全ての皮膚疾患を対象に診療しています。

一般外来・入院診療のみならず、特殊治療（レーザー治療、紫外線治療、イオントフォーシスなど）、手術（腫瘍切除、植皮術、皮弁形成術など）、皮膚病理などの研修ができます。

当科内での症例検討は毎日行っており、抄読会、病理検討会をそれぞれ週1回行っています。

各種学会にも積極的に参加しており、臨床・学術ともに高いレベルを保つよう努力しています。



泌尿器科

“泌尿器科”は腫瘍外科を中心に治療を展開していますが、尿路性器悪性疾患のみならず尿路性器感染症、老年泌尿器科疾患、救急医療、終末期医療といった領域に幅広く対応、手術支援ロボットも導入・更新し（ダヴィンチXi）、先進的な全人治療を行っています。さらにチーム医療、先進的な全人治療を行っています。さらにチーム医療にも積極的に参加し、排泄ケアや緩和ケアなど各職種横断的な医療活動でも重要な役割を担っています。現在7名のスタッフで診療にあたっており、4名が日本泌尿器科学会認定専門医・指導医の資格を有し、3名は卒後3～5年目の若手医師であり、泌尿器科臨床研修を志す医師に初期診療から高度な手術まできめ細かくマンツーマンで指導し、バランスのとれた泌尿器科研修を提供できる体制が整っています。本院は日本泌尿器科学会専門医教育基幹病院であり、当科での研修期間は泌尿器科専門医の受験資格に算定されます。年間患者概数は2023年は初診患者1454名、入院患者990名、手術件数696件とコロナ前よりも増加しており、豊富な臨床経験を積むことができます。また、カンファレンス勉強会を行い、各種学会にも積極的に参加しており学術的にも充実した研修ができます。



眼科

地域中核病院の眼科として、質の良い医療を提供することを診療の基本理念としています。現在、当院では手術を行っておりません。手術や専門性の高い疾患に関しては、連携している神戸アイセンター病院を中心に紹介しています。



耳鼻咽喉科

日本耳鼻咽喉科学会認定医2名で診療を行っています。外来患者は、1日30～40人で、午前一般診療、午後は週3回検査（めまい・エコーガイド下針生検・CO2レーザー治療等）を行っています。

入院患者は、令和5年度で1日平均5.3人、急性疾患の救急・準救急入院が約半数を占めます。1年間の手術件数は約200件で、顕微鏡下および内視鏡下中耳手術（鼓室形成術等）、内視鏡下鼻・副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎に対する後鼻神経切断術、扁桃摘出・口蓋弓形成・アデノイド手術、耳下腺、顎下腺腫瘍手術、甲状腺腫瘍手術、ラリンゴマイクロサージェリーなど多岐にわたり初期研修としては、十分な症例を経験できると考えます。

悪性腫瘍に対しては手術（腫瘍摘出＋頸部郭清術）と化学療法を中心として行っています。

また、他科（神経内科、歯科口腔外科、リハビリテーション科）と協力して、入院患者の摂食嚥下機能評価なども積極的に行っています。



放射線科

放射線専門医2名と院外からの応援で診断、IVR（interventional radiology）を中心に行っています。

悪性腫瘍に対する経カテーテル的治療やシャントPTA、止血術といったvascular IVRはもとより、non-vascular IVRにも取り組み、緊急症例にも積極的に対応しています。

当科では各科と種々カンファレンスを行い豊富な症例をフィードバックできるようにしています。



病理診断科

1名の認定病理医がいます。CPC、画像と病理カンファレンスなどで臨床との密な連携を心がけています。



歯科口腔外科

地域医療機関との連携を積極的に進めています。地域の二次医療機関として、外来歯科手術、合併症を有する患者さんの歯科手術、日帰り麻酔下歯科治療、インプラント、インプラント関連歯科手術、さらに、顎骨のう胞・腫瘍、顎骨周囲の炎症、顎関節疾患、唾液腺疾患、顎骨骨折、口腔粘膜疾患などの口腔外科疾患への対応を行っています。

また、がん患者の口腔機能管理や栄養管理チームの一員として口腔ケア、摂食・嚥下障害にも取り組んでいます。



病棟

西市民病院は神戸市街地西部の急性期医療を担う地域密着型の総合病院です。病床数 358 床を有し、全日 24 時間体制で 1 次 2 次の救急診療に対応しています。また、病床一元管理により効率的に病床運用することで、さまざまな医療ニーズに対応しています。病棟は全 8 病棟で構成され、各病棟の機能を最大限に活かした効率的な病床管理を行っています。

4 階は各科の専門的協力を得て高度な治療を行う中央診療部門です。救急病棟と、隣接して HCU があります。全科対象の緊急入院患者の初期治療及び重症患者の集中治療に対応しています。ここでは医師・看護師・臨床工学士等が緊密な連携のもと、患者への早期診断・治療に向けて、必要な医療が提供できるように体制を整えています。身体合併病床及び陰圧個室を有しており、結核をはじめとした空気感染対策が必要な患者も受け入れ可能です。

5 階は産科・婦人科・小児科・整形外科の混合病棟（女性病棟）です。周産期センターとして産科、小児科が速やかに対応し、安全・安心な母児医療を行っています。また、小児科はアレルギー疾患の治療に力を入れるとともに、各診療科の 15 歳以下の子どもの入院、手術に対応しています。

6 階から 11 階は、急性期一般病棟です。各病棟には主となる診療科がありますが、共同利用として様々な診療科を受け入れています。各診療科の内科、外科治療をはじめ、7 階病棟では眼科手術や脳卒中、神経難病の治療も行います。整形外科は 5 階、8 階、11 階が担当し、手術・リハビリテーションを中心とした治療が行われ、機能回復や在宅支援に積極的に取り組んでいます。呼吸器内科を主としている 9 階では NPPV 装着、呼吸器リハビリテーションや在宅酸素療法の導入も実施しています。10 階では循環器における心血管内治療、心不全治療に加え、透析センターと情報交換しながら血液浄化療法や CAPD の導入についても対応しています。11 階では糖尿、腎教育など患者さんの主体性を尊重した教育入院を実施しています。どの病棟においても、高度標準治療が提供できるように対応しており、他職種と連携し、患者さんが安心して療養できるように支援しています。

中央医療部門等

放射線技術部

放射線技術部は総勢 17 名で様々な専門認定資格を持ち、一般撮影や CT・MRI、血管撮影などの業務を担っています。また放射線の専門家として、医用画像の管理、医用放射線の適正使用と安全管理（システム導入）も行っております。

日々の診療では放射線科をはじめとする各診療科の医師、そして多職種の医療スタッフと共にチーム医療の一員として、安全で質の高い心のこもった医療を提供しています。

そして、私たちは臨床における技術の習得はもとより、国内外の各種学会への参加を含めた学術研究、専門技師・認定資格の取得などの自己研鑽を行い、より質の高い、安心で安全な医療の提供をできるように努めております。

また地域の中核病院として、診療だけでなく教育、研究、地域連携についても、オープンカンファレンスなどを積極的に行い、地域社会に貢献できるように努めていく所存です。

「Mastery for Service」をモットーに信頼と特徴のある放射線技術部を目指してまいります。



臨床検査技術部

臨床検査技術部では、生化学・血液・一般・微生物・感染症・輸血関連・病理などの検体検査や、外来採血業務・生理検査（心電図・脳波・超音波など）などの患者と接する検査を行っています。

細胞検査士6名、国際細胞検査士3名、超音波検査士（腹部8名、循環器9名）、医療情報技師3名、二級臨床検査士7名、認定検査技師（病理2名、血液3名、認知症領域1名）、日本糖尿病療養指導士2名など、多くの資格認定も取得し自己研鑽に励んでいます。

また、ICT・AST・NST・糖尿病教室・CPR などチーム医療にも参画しており、病理部門、生理部門では関連医師とのカンファレンスを定期的に行っています。

当院は『地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供する』ことを基本理念として掲げています。これを達成するため検査室では、「信頼されるデータを正確迅速に」をモットーに自動化を推進し、24時間途切れることのない検査体制で臨床に質の高い医療を常に提供できるよう心がけています。



手術部

当部署は、6室（うちバイオクリーンルーム1室）の手術室を有しています。手術室の医療機器は日々更新され、現行の手術が滞りなく遂行できる環境が整っています。

当院では外科（消化器・呼吸器・乳腺）、整形外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科、脳外科、歯科口腔外科が手術室を利用し、多種多様な手術を行っている。令和5年度は3,230件の手術を実施し、その内409件が緊急手術となっています。

令和4年度には、既存のダヴィンチSiがXiに更新され、消化器外科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科領域のロボット支援下手術を実施しています。令和5年度は200件を超えました。

集中治療部

重症患者管理のために6床を有しています。食道癌などの大手術後、重症肺炎、急性心筋梗塞、敗血症性ショック、重症肺炎、多臓器不全などを対象としています。最新の患者監視装置を用いて時々刻々の状態変化を捉え、人工呼吸器、経皮的心肺補助装置、IABP、血液浄化装置などの治療機器を駆使して重症患者の救命をめざしています。

最大の効果を得るために、各診療科医師、看護スタッフ、放射線部門、臨床検査部門、臨床工学部門、リハビリ部門、栄養部門などの各部門が緊密に連携して治療にあたっています。

研修医は、一定期間集中治療部での診療に専従し、重症患者の診断・治療法及び人工呼吸器などの高度医療機器の使用法を修得します。

血液透析センター

医師、看護師、臨床工学士のチームで、ベッド数は20床。月水金は2回転、火木土は1回転で血液透析を行っています。

対象患者は透析導入期の患者、合併症のある外来通院維持透析患者、急性腎不全を発症し緊急透析を必要とする患者、他院で透析中であるが手術や検査目的などで当院へ入院が必要な患者であり、神戸市西部の透析中核病院として機能を果たしています。

また、医師と看護師で腹膜透析外来を行っており、現在 13 名の患者が通院されています。また腎代替療法の選択をサポートする療法選択外来を開設し、年間約 100 名の患者に情報提供しています。年間透析数は、約 4,900 件です。

薬剤部

24 時間、365 日薬剤師が常勤し、平日には全病棟に薬剤師を配置し、すべての患者さんの持参薬を含めた処方・注射薬の内容を確認しています。また、手術予定の患者さんの常用薬を入院前に確認しておくすり確認外来やがん患者さんへの治療や副作用のご説明を行う薬剤師外来も行っており、安心・安全な医療・薬物治療を提供できるよう努めています。副作用のモニタリングを行い、医師に処方提案も行っています。

また、医薬品の情報提供として、医師・看護師などの質問・相談にも薬剤師全員ですぐに回答できるよう努めています。緩和ケア・ICT・糖尿病・NST などのチーム医療にも積極的に参画し、薬剤師として活躍できるよう専門薬剤師の育成にも努めています。

薬業連携として、薬剤師会や地域の薬局とは月に 1 回の連絡会議を持ち、院外処方せんを介して外来診療の向上にも寄与しています。

薬剤部一丸となって、西市民病院を盛り上げます。



栄養管理室

管理栄養士 9 名が在籍しており、入院患者の栄養管理は、医師・歯科医師・看護師・薬剤師等と共同で栄養管理計画に基づいた栄養管理を実施しています。管理栄養士は、病棟担当制を採用し、患者一人一人の病態に合わせた栄養管理ができるように取り組んでいます。

患者の栄養状態の改善による QOL・治療効果の向上及び感染症等の合併症予防等を目的とした栄養サポートチーム (NST) では、管理栄養士が中心的な役割を担い、医師・看護師をはじめ多職種と連携し活動しています。また、糖尿病、褥瘡、小児アレルギー、緩和ケア、周術期サポートなどチーム医療の一員として活動しています。

食事療法が必要な入院・外来患者に対し、低栄養から過剰栄養まで、患者の病態のみならず、日常生活や食習慣に合わせて栄養相談を行い、疾病治療・再発防止・社会復帰のために退院後の食生活や生活習慣改善の支援に努めています。

また、病態に即した安全でおいしく心のこもった食事の提供に努めています。



リハビリテーション技術部

地域の中核病院・急性期病院としての機能を考慮し、入院患者の早期リハビリテーションを主体に実施しています。

施設基準は運動器リハビリテーション(I)、脳血管疾患等リハビリテーション(I)、廃用症候群リハビリテーション(I)、吸器リハビリテーション(I)、心大血管疾患リハビリテーション(I)、がん患者リハビリテーションであり、ほぼ全科からの依頼に対応しています。

スタッフは理学療法士(PT)17名、作業療法士(OT)7名、言語聴覚士(ST)2名で多面的なアプローチが可能です。

対象疾患は、運動器疾患と呼吸器疾患がそれぞれ3割、ついで脳血管疾患です。近年では、内科・外科系からの依頼も多く、がん患者や心疾患に対するリハビリテーションも積極的に取り組んでいます。



臨床研修協力施設

地域医療

1 兵庫医科大学ささやま医療センター

研修の特徴と内容

■ 特徴

兵庫医科大学「ささやま医療センター」は、人口11万人の丹波圏域(丹波篠山市4万人、丹波市7万人)の兵庫県中部の盆地にある病院で、地域の基幹病院として地域医療に取り組んでいます。へき地医療拠点病院に指定されており、行政、医師会、地域の病院・診療所や公設のへき地診療所、介護事業所などと協力し合っており、地域医療連携の輪を機能させています。高齢化が進んでおり、寝たきりや認知症例も少なくないので、在宅医療や往診医療の充実が望まれています。「ささやま医療センター」では一次及び二次救急をはじめとする急性期診療を行い、併設しているリハビリテーションセンターとささやま老人保健施設では在宅復帰支援と在宅維持支援を行っています。また「ささやま医療センター」医師を市のへき地診療所に派遣しており、地域における在宅医療の推進に貢献しています。「ささやま医療センター」では内科系診療科を細分化せず、総合診療・家庭医療科として一括し、さらに各専門診療科との協力によって、診療科の垣根を撤廃した全人的医療を目指して診療にあたることも、家庭医療学と地域に根ざした臨床研究も行いながら全人的医療が実践できる医師の養成・教育を行っています。ここでの研修は急性期から慢性期までの幅広い症例を、患者中心の全人的医療として経験できるため、兵庫医科大学の医学生、兵庫医療大学の薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の学生の臨床実習も行われています。

また、今日の地域医療や高齢者医療においては医療と介護が大きな両翼になっていることから、臨床医としては医療保険制度のみならず介護保険制度を理解し、現状と問題点を把握しておく必要があります。併設されている「ささやま老人保健施設」にて、包括的ケアサービス施設、リハビリテーション施設、在宅復帰施設、在宅生活支援施設、地域に根ざした施設という基本理念を理解し、実際にケアチームの一員として実践することでチーム医療の重要性と医師の役割についての理解が深まります。

■ 内容

① 一般目標 (GIO)

緊急を要する急性疾患や慢性疾患の急性増悪、外傷をはじめ、日常の管理を要する慢性疾患などの多彩な病態を有する患者に対して全人的医療を実践するために、地域医療に求められる知識・技術・姿勢を身につける。老人保健施設での研修は、地域医療における急性期医療から回復期医療、在宅医療までを一連として経験し、高齢者診療を学ぶ。

② 行動目標 (SBOs)

1. 地域における疾病構造、医療需要、地域連携医療について説明できる。
2. へき地ならびに支援者のいない状況で診断治療が行える。
3. プライマリケアを実践できる。
 - a. パイタルサインや身体所見を迅速に把握できる。
 - b. 疾患や病態に応じた適切な診療が行える。
 - c. 患者家族を取り巻く環境を理解し、全人的医療が行える。
 - d. 小児科および産科婦人科の基本的な診療が行える。
 - e. 外科、整形外科、リハビリテーション科、介護老人保健施設における基本的な診療が行える。
 - f. 地域の医療機関との連携が行える。
 - g. 介護保険制度を理解し、介護事業所との連携が行える。
4. 栄養管理法を実践できる。
 - a. 入院患者の栄養管理が行える。

- b. 在宅経腸栄養法、在宅経静脈栄養法などの在宅栄養管理が行える。
- c. 高齢者や慢性呼吸器障害（COPD）患者などの特殊な病態における栄養管理を説明できる。
- 5. 介護支援業務、老人保健施設でのサービスを実践できる。
- ③研修内容（方略）（LS）
 1. チームの一員として、指導医および上級医の指導下入院患者の診療を行う。
 2. カンファレンスおよび診療部長回診に参加する。
 3. 超音波検査のような非侵襲的検査および内視鏡検査のような侵襲的検査法を経験する。
 4. 内科外来・救急外来・小児科外来・産科婦人科外来（分娩も含む）・当直帯において、複数の疾患を抱える患者の診療を、指導医とともに行う。
 5. 外科、整形外科、リハビリテーション科、介護老人保健施設における診療を経験する。
 6. 在宅栄養療法を経験する。
 7. へき地診療を経験する。
 8. 病病連携、病診連携を通じ、患者の目線に立った地域連携医療の完結を実践する。
 9. チームの一員として、指導医および上級医の指導下に臨床実習学生の指導を行う。
 10. ささやま老人保健施設にてケアチームの一員としてケアを実践する。
- ④教育に関する行事
 1. 1カ月は内科（総合、循環器、消化器、呼吸器）
 2. 1カ月は常設科より選択が可能。具体的スケジュールは選択科の予定に従う。
- <週間スケジュール>
 1. 医局会 / 症例検討会 / 抄読会：第2月曜日 17:00（可能なら第1月曜日も行）
 2. ミニプレゼンテーション：毎木曜日 17:00
- ⑤研修評価（EV）
 1. 自己評価：研修医手帳へ症例を記載し、EPOCを入力する。
 2. 指導医による評価：研修医手帳への記入状況、EPOCへの入力状況、診療チームでの勤務状況を評する。
 3. 看護師による評価：EPOCを用いて、看護師側からの評価を加味する。
 4. 研修医相互による評価：研修医同士で評価をし合い、お互いの問題点の解決をはかる。
 5. 受け持ち患者による評価：全人的医療実践の評価の参考にする。

2 丹波医療センター（旧 兵庫県立柏原病院）



■ 施設概要

兵庫県立丹波医療センターは兵庫県中東部の丹波圏域にある地域の中核病院です。消化器および循環器の専門領域の診断治療に加えて総合診療、救急医療、がん診療（がん診療連携拠点病院）、小児科・周産期医療の丹波地域の重要な拠点病院として位置付けられています。内科系診療においては、外来は臓器別の専門診療があり、入院は臓器別に分れることなく診療“とかいなか”で世界標準の医療の提供を目指しています。

丹波市は、市内西部を日本標準時子午線（東経135度線）が通っており、北東では京都府、南東では丹波篠山市、南西では多可町、北西では朝来市と境を接しています。瀬戸内海へ注ぐ古加川と、日本海へ注ぐ由良川の2大河川の源流が走っており、周囲を豊かな自然環境に恵まれている一方で、大阪・神戸・京都へのアクセスがしやすい位置にある病院です。

2019年7月から県立柏原病院と柏原赤十字病院は統合し県立丹波医療センターとして生まれ変わった統合新病院として、急性期のみならず、地域包括ケア病棟、回復期・リハビリ病棟、緩和ケア病棟を有し、幅広い医療を提供しています。

■ 研修内容

県立丹波医療センターでは、2次・3次救急診療、急性期入院、慢性期入院、緩和ケアを学ぶことができます。一方同一敷地内にある、丹波市ミルネ診療所は県立丹波医療センターの総合診療メンバーが中心となり運用し、総合診療外来、人間ドック、訪問診療などを行っています。両医療機関により、シームレスな患者診療を経験できます。

地域医療研修では、ミルネ診療所の外来、訪問診療、住民講話、希望に応じて、丹波医療センターの初診外来、救急外来、病棟診療を研修できます。病棟診療以外の診療を学ぶには有意義な研修が行えます。

3 西脇市立西脇病院

■ 施設概要

西脇市立西脇病院は、兵庫県のほぼ中央、東経135度、北緯35度が交差する『日本列島の中心・日本のへそ・西脇市』にあります。人口約4万人の小さなまちですが、播州織や釣り針、神戸ビーフの優良産地として知られる黒田庄和牛のほか、高校駅伝（地元の西脇工高は、全国制覇8度）などが有名です。

当院は、臨床研修指定病院（管理型）や地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、臓器提供施設、災害拠点病院、へき地医療拠点病院などの指定や承認をいただくほか、地域医療計画では5疾病のうち4疾病（がん、脳卒中、糖尿病、精神疾患）の指定を、5事業では4事業（救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療）を担っています。

平成26年8月には認知症疾患センターを開設し、認知症疾患に関する相談や鑑別診断、かかりつけ医等への研修を実施しています。地元の西脇市多可郡医師会からは、病診連携に大変ご協力いただき、当院内に休日急患センターを設置し、そこで救急患者の診察を行っていただいています。さらに住民とともに地域医療を守るために『地域医療検討会』を定期的に開催されています。

一方、市民の皆様からは、『西脇小児医療を守る会』による支援活動も継続的に行っていただいています。

平成23年12月には『西脇市の地域医療を守る条例』も制定されました。このように市民や医師会の皆様方が支えてくださる病院は、全国的にも珍しいのではないかと考えています。

近年では、血液内科、脳神経内科、呼吸器内科、乳腺外科、病理診断科など、より専門性の高い診療科の医師の着任とともに、診療内容の充実が図られています。

■ 研修プログラムの特色

全診療科を通じた研修により、チーム医療の重要性を習得し、救急医療の研修を通じ、総合診療医としてプライマリーケアに対応できるようにする。

■ 臨床研修の目標の概要

臨床医は、特定の専門分野にしばられることなく、全人的なプライマリーケアを実践する必要がある。卒後初期研修は、将来研修医が専門分野に進んでも必要な診療に関する基本的な知識、技能及び態度の習得を目標とする。

救急診療部門

当院は市民病院として市民の健康を守るために、救急医療を最重要課題として取り組んでいます。内科・外科系は全日24時間体制で1次2次救急診療に対応し、小児科は2次救急輪番病院として月6～7回救急当直体制をとっています。産科は通年で当直体制を組み、産科通院患者のため救急対応・分娩対応を行っています。

当院には独立型の救急部はありませんが、各診療科の医師が協力し合って神戸市街地西部地域の救急医療を守るべく努力しています。初期研修医の皆さんには、上級医の指導のもとに救急外来診療や救急入院患者の診療にあたっていただきます。救急外来研修ではプライマリーケアから各種救急疾患の診断と治療という卒後研修に欠かせないことを学び、救急病棟やHCUでの研修では各科の救急疾患の初期対応や診断・治療、さらに重症患者に対する集中治療を学ぶことができます。救急病棟・HCUでのモーニングカンファレンスや毎水曜日夕方の救急カンファレンスは活気があり、研修医教育として大いに役立つものと考えています。

また、神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センターでの1ヵ月間の研修により3次救急診療を学ぶこともできます。

初期研修医の皆さんには救急医療の現場で先輩医師の指導のもとに、自ら身体を動かし、体験することの重要性を学んでいただきたいと思います。もう少し詳しく知りたい方は、当院ホームページの「診療科一覧」から【救急部・集中治療部】のページをご覧ください。

地域医療部門

地域医療在宅支援室

当部署の基本理念は、市内西部地域の中核病院として、医療・保健・福祉関係機関との連携を図り、市民が安心して療養生活が送れるよう支援すること。また地域社会や地域で暮らす方々の健康を支える、医療と介護・保健・福祉等の架け橋となることです。

地域医療在宅支援室には入他院支援係・在宅支援係・認知症疾患医療センター・病診連携室があります。高齢化が進む地域において、地域の皆様が住み慣れた場所で長く住み続けられるよう、ケースワーカー・看護師・事務担当者が一丸となって支援しています。

医療現場は大変なことも多いですが、私たちと一緒に地域の皆さんのために頑張ってください。あなたたちの知識と情熱が、地域の健康に貢献することになります。



臨床研修の内容及び条件

当院の臨床研修は、医師としての人格を涵養し、医学・医療の社会的ニーズに対応し、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることを目的としています。

期間とプログラム

1 医科（研修期間：2年間）（案）

オリエンテーションを実施した後、内科（32W）、救急（12W：一部並行研修含む）、集中治療（8W）、麻酔科（8W）、外科（8W）、小児科（4W）、産婦人科（4W）、精神神経科（4W）、地域医療（4W：兵庫医科大学ささやま医療センター、兵庫県立丹波医療センターまたは西脇市立西脇病院）、一般外来研修（4W以上：並行研修を原則）、自由選択（約5ヶ月）を計2年間の研修を行ないます。また、救急当直に概ね月4～5回従事します。

救急・集中治療のうち4Wは、神戸市立医療センター中央市民病院での救命救急センターにおける3次救急を含めた救急診療実習を行います。

■ プログラム基本形態（案）

内 科							外 科	麻 酔 科	救 急・HCU※	小 児 科・周産期	産 婦 人 科	精 神・神 経 科	地 域 医 療	自 由 選 択
一 般 外 来	腎 臓	脳 神 経	呼 吸 器	循 環 器	消 化 器	内 分 泌・糖 尿 病								
32W							8w	8w	20w	4W	4W	4W	4W	約5月

※初年度は、神戸大学と兵庫医科大学のたすきがけコースの1～2名と合同で研修を行っています。

2 歯科（研修期間：2年間）

2年間の研修期間で、全人的な視点から得られた医療情報をもとに、総合治療を行える歯科医師を目指すためのプログラムです。オリエンテーション実施後、原則として、当院歯科口腔外科にて研修を行います。合計1か月以内の研修協力施設での研修も実施します。また、他科の医師や看護師、コメディカルと共に症例検討を行い、全身的な治療に関する知識を得ることができます。

■ 本プログラムの特徴

- ・本プログラムは神戸市立医療センター西市民病院研修管理委員会の管理下であり、採用から研修修了までを管理し、修了認定を受けた者に対して研修修了証を授与する。
- ・基本的に医科の臨床研修プログラムの研修理念、特徴、基本的研修目標、行動目標（医療人として必要な基本姿勢・態度）を同じくする。
- ・本プログラムは法定のプログラムに沿った単独型のプログラムであり、「基本習熟コース」と「基本習得コース」の両方を、病院歯科での研修に取り入れつつ、ここで経験できない項目は研修協力施設でカバーできるよう工夫している。

■ 研修目標

- ・歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
- ・全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- ・歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身につける。
- ・一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- ・歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
- ・自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
- ・病院歯科におけるチーム医療を学ぶ。
- ・生涯研修の第一歩として科学的思考に基づいた医療を実践する習慣を身につけるとともに、専門的知識や高度先進的歯科医療にも目を向け、生涯研修の意欲への動機付けとする。
- ・高齢者、有患者、障害者の全身の評価ができ、歯科医療を安全に実施できる歯科医師をめざす。

■ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	インプラント外来	再診	再診
午後	外来手術	日帰り麻酔下手術	入院手術	外来手術	入院手術
	摂食嚥下外来	摂食嚥下外来	カンファレンス	NSTカンファレンス	口腔ケア

診療科別医師数一覧表

院 長 中村 一郎
副 院 長 富岡 洋海 西口 滋

(令和6年6月1日現在)

診 療 科		責 任 者	医師数 ※1	専攻医	2年次 臨床研修医	1年次 臨床研修医	
内 科	消 化 器 内 科	清 水 孝 洋	10	2	7	11 ※2	
	呼 吸 器 内 科	富 岡 洋 海	9	3			
	リウマチ・膠原病内科	壺 井 和 幸	1				
	循 環 器 内 科	高 橋 明 広	4				
	腎 臓 内 科	渡 邊 周 平	5	1			
	糖 尿 病・内 分 泌 内 科	中 村 武 寛	4	1			
	脳 神 経 内 科	菅 生 教 文	1				
	総 合 内 科	西 尾 智 尋	4				
精 神 ・ 神 経 科	古 野 和 歌 子	1					
小 児 科	江 口 純 治	4	1				
外 科	中 嶋 早 苗						
消 化 器 外 科	中 嶋 早 苗	7	2				
呼 吸 器 外 科	竹 尾 正 彦	2					
乳 腺 外 科	三 瀬 昌 宏	2					
脳 神 経 外 科	足 立 秀 光	1					
整 形 外 科	西 口 滋	5	1				
リハビリテーション科	布 施 謙 三	1					
皮 膚 科	谷 川 絢 乃	2	1				
泌 尿 器 科	中 村 一 郎	4	3				
産 婦 人 科	森 島 秀 司	5					
眼 科							
耳 鼻 咽 喉 科	後 藤 昭 一	2					
麻 酔 科	榎 泰 二 郎	6	1				
放 射 線 科	奥 野 晃 章	2					
臨 床 病 理 科	勝 山 栄 治	1					
救 急 部	足 立 秀 光						
歯 科 口 腔 外 科	西 田 哲 也	2	1				1
認 知 症 疾 患 医 療 部	木 原 武 士	1					
計			86	17	7	12	

※1 兼務の人数は含まない。

※2 1年次臨床研修医には、神戸大学、兵庫医科大学たすきがけコースを含む。

令和5年度診療状況

(単位：人)

	外 来						入 院				(分娩件数) 手術件数
	初診	一日平均 (初診)	合計	一日平均 (合計)	救急 総件数	時間外	新患	延患	一日平均	平均在院 日数	
内 科	7,806	32.1	81,143	333.9	8,767	6,692	4,395	53,519	146.2	11.9	37
(うち、総合内科)	1,671	6.9	4,612	19.0	—	—	351	4,772	13.6	13.3	—
精 神・神 経 科	37	0.2	3,149	13.0	—	—	—	—	—	—	—
小 児 科	827	3.4	5,504	22.7	535	259	603	2,253	6.2	3.7	—
外 科	557	2.3	11,437	47.1	1,155	591	1,143	16,089	44.0	13.2	1,051
乳 腺 外 科	106	0.6	3,890	20.3	53	3	80	783	2.1	9.7	
整 形 外 科	1,354	5.6	18,109	74.5	1,205	695	710	12,820	35.0	17.5	720
脳 神 経 外 科	50	0.5	1,032	10.2	83	19	42	692	1.9	15.9	4
皮 膚 科	1,022	4.2	11,882	48.9	601	435	199	2,189	6.0	10.7	151
泌 尿 器 科	841	3.5	12,789	52.6	438	191	1,024	8,935	24.4	8.6	716
産 婦 人 科	984	4.0	12,176	50.1	605	378	688	4,370	11.9	6.3	(304) 302
眼 科	27	0.1	2,801	11.5	—	—	—	—	—	—	—
耳 咽 喉 鼻 科	734	3.0	6,226	25.6	482	426	263	1,946	5.3	7.4	175
歯 口 腔 外 科	2,484	10.2	10,824	44.5	67	17	132	325	0.9	2.5	72
放 射 線 科	332	1.4	1,172	4.8	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	248	1.3	1,010	5.2	—	—	—	—	—	—	—
計	17,409	71.6	183,141	753.7	13,991	9,706	9,279	103,921	283.9	11.2	(304) 3,230

・医科研修医の一日

研修の特徴

- 研修医メインの救急外来でとても勉強になります!
- 各科の垣根が低くなんでも相談できます! 雰囲気のととてもいい病院だと思います。
- 時間外手当・当直手当など手当てがしっかりもらえます!
- 研修の自由度が高いです! 特に選択期間は自分で好きなように研修を組み立てられます。

仕事開始



9:00頃、病棟やそれぞれの持ち場へ移動し仕事開始です。上の先生が外来や検査・手術で忙しいこともあり、入院患者は研修医がメインで診てます。

手術室では



手術では研修医も積極的に手を動かしています。

朝

昼

HCUラウンド



まずは朝、担当患者を診終わったら、8:30～ HCUラウンド。HCUの研修医が病状や治療内容を毎朝プレゼンします。

救急ラウンド



HCUラウンドに続いて、8:45頃～ 救急ラウンド。昨日当直した研修医が入院させた患者のプレゼンと各科Drより feedback をもらいます。

その他にも

毎週火曜7:45～ 抄読会。当番で英語論文を読んでいます。



年数回、ICLSコースにて心肺蘇生のセミナーを行っています。



お昼休み



西館の2階に研修医だけの医局が用意されています。各々の机も用意され、思い思いに使ってます。



夕方になると各科でカンファレンスが始まります。
それとは別に研修医の出席が義務づけられているカンファレンスが2つあります。
ひとつは内科カンファレンス、もうひとつは救急カンファレンスです。

内科カンファレンス



毎週火曜17:30～
内科をローテーション中の研修医が
当番で症例発表を行います。
また月末には放射線科や病理の
先生方、検査技師を交えて
剖検症例のカンファレンス
(CPC)を行います。

救急カンファレンス



毎週水曜17:30～
救急外来やHCU研修のために必要な知識・技術を勉強するカンファレンスです。



夕方

夜

救急外来



救急外来は研修医メインで回っています!
自分で問診・所見を取り鑑別を上げて、
検査をオーダーし評価します! 一番勉強になりますよ。
回数は4～5回/月のペースです。



一年生は上の先輩に教えて貰いながら
スキルを上げていきます。
二年生は一年生を教えながら勉強しつつ、
救急外来をメインで支えています。



一緒に働けることを
研修医一同
強く願って、
お待ちしております!!

その他、マッチング情報

地域、国私立問わず様々な出身大学から集まっています!

主な出身大学

関西…京都大学・神戸大学・三重大学・大阪医科大学・関西医科大学・和歌山県立医科大学・兵庫医科大学
中四国…岡山大学・鳥取大学・香川大学・愛媛大学・広島大学・徳島大学・高知大学
北陸…金沢大学・福井大学
九州…宮崎大学・産業医科大学・琉球大学・大分大学
関東…群馬大学・獨協医科大学・順天堂大学
中部…信州大学
東北…岩手医科大学

◆来年度マッチング内容(予定)

募集人数:7名

試験内容:小論文・面接

試験日:令和6年8月初旬

(申込期限:7月中旬)

※1週間程度あけて複数回実施します。

◆今年度マッチング結果…定員7名、マッチ数7名

歯科臨床研修 のご案内

当院歯科口腔外科の特色

- 各種歯科口腔外科疾患や全身疾患を有する患者全般に関する幅広い研修が可能です。
- 神戸市市街地西部地域の中核病院として、密接な地域連携のもとに幅広い症例を経験できます。

人数等

- スタッフ2名、後期研修医1名、初期研修医1名(うち研修指導歯科医2名)
- 初診患者数:2,230人(うち紹介患者数1,002人)

歯科口腔外科で行うこと

- 口腔領域の外傷、炎症、口腔粘膜疾患、顎骨嚢胞、腫瘍、顎関節症などの口腔外科疾患
- MRI、3D-CTなど医療機器を駆使した画像診断
- 有病高齢者に対する訪問歯科診療における後方支援
- 誤飲・誤嚥等への救急対応や嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群等の歯科的なアプローチ

主な症例

口腔外科疾患手術	摂食嚥下障害
全身麻酔下歯科手術(治療)	有病者歯科治療
静脈内鎮静法下手術(治療)	入院患者の口腔ケア

外来手術(処置)件数 (令和元年度実績)

検査名	件数
日帰り全身麻酔下手術(歯科治療)	64
歯科外来手術(埋伏智歯他)	1,353
インプラント手術(骨造成含む)	11
静脈内鎮静法下手術(処置)	58
□ 腔 ケ ア	2,405
嚥 下 評 価	130

入院全身麻酔下手術件数 (令和元年度実績)

手術名	件数
智 歯 抜 歯	28
嚢胞性疾患手術	8
埋伏歯(過剰歯)抜歯	7
顎骨腐骨摘出手術	3
良性腫瘍切除術	5
有病者歯科治療	0
顎骨骨隆起切除術	2
顎骨骨髓炎対応	0
小 帯 切 除	1

代表的な治療

()内各数値は令和元年度実績

- インプラント治療(11例/年)
 - ・骨移植等の前処置が必要となるインプラント症例
- 口腔ケア(2,405例/年)
 - ・周術期の口腔管理や誤嚥性肺炎のリスクの高い易感染性患者への口腔ケア
 - ・糖尿病などの疾患や病状に応じた口腔ケア
 - ・化学療法における口腔トラブルの予防・緩和



有病者への治療

●日帰り全身麻酔(64例/年)

主に非協力の低年齢児や障害ある方に対し手術当日に入院し、全身麻酔下に処置を実施し、その日のうちに帰宅いただけます。



入院手術の様子(4Fオペ室)



●静脈内鎮静法(58例/年)

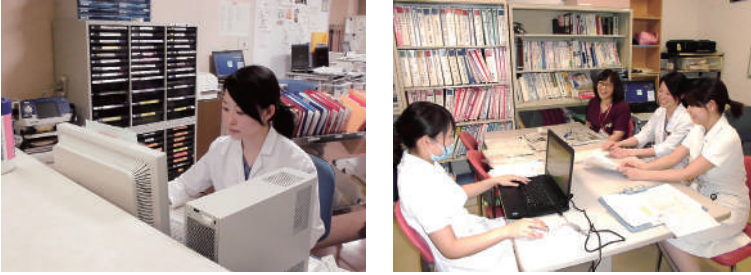
低位埋伏の智歯抜歯など比較的侵襲の強い措置や、歯科治療に対し恐怖心が強く緊張がみられる場合には積極的に実施しています。



鎮静下処置の様子

看護師等との連携

歯科口腔外科の病床は8階病棟にあります。
看護師等と連携をとりながら術前・術後の管理を行っています。



カンファレンス

歯科口腔外科として症例検討や論文抄読をする。
カンファレンスを定例で開催しています。
また、チーム会のカンファレンスでは、他科の医師や看護師、
コ・メディカルと共に症例検討を行っています。

- 歯科口腔外科カンファレンス (週1回)
- 摂食嚥下チームカンファレンス (週1回)



月・火曜朝礼



NSTカンファレンス

他にも病院歯科医としての全身的な治療に関する知識を得る機会として、
医科研修医必修のカンファレンス等にも参加できます。

研修目標

1. 歯科医師として好ましい態度・習慣を身につけ、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
2. 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
3. 歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身につける。
4. 一般的によく遭遇する応急処置と、頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
5. 歯科診療時の全身的偶発事故に適切に対応する。
6. 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
7. 病院歯科におけるチーム医療を学ぶ。
8. 生涯研修の第一歩として科学的思考に基づいた医療を実践する習慣を身につけるとともに、専門的知識や高度先進的歯科医療にも目を向け、生涯研修の意欲への動機付けとする。
9. 高齢者、有病者、障害者の全身の評価ができ、歯科医療を安全に実施できる歯科医師をめざす。

研修医医局

研修医だけの医局が用意されています。
各々の机も用意され、思い思いに使ってます。



- 研修期間 2年間
- 採用人数 1名
- 研修スケジュール
 - ・原則として、当院歯科口腔外科で研修を行います。4月中旬まで医科研修医と合同のオリエンテーションがあります。
 - ・また、当院以外の研修協力施設での研修を予定していますが、期間は不定期であり、合計1月以内となります。

週間スケジュール(例)

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	インプラント 外来	再診	再診
午後	外来手術	日帰り麻酔 下手術	入院手術 歯科カンファレンス	外来手術 NSTカンファレンス	入院手術

歯科口腔外科一同、お待ちしております!!



先輩の声

当院で研修を修了した先生方に、
以下の質問に答えていただきました。

医科研修医

Q1 西市民病院を研修先として選んだポイントは？

- 活発に研修を行うことができる病院で研修を行いたいという思いがあり、見学させていただいた際に研修医が積極的に体を動かし救急医療へ携わっているこの病院で研修したいと思いました。
- 大病院よりも中規模病院の方が、診療に主体的に取り組む機会が多いのではないかと考えて、初期研修としては西市民病院が一番適していると考えました。
- プライマリ・ケアを研修するに適した病床数であるとともに、病床数の割に診療科が多く選択肢も多いこと。
- 研修医室の雰囲気の良さ。

Q2 西市民病院で研修して良かった点は？

- 研修してみて救急外来の対応の難しさを痛感しました。救急外来を受診した患者さんの症状に伴い考えられる鑑別疾患、治療もそうですが、具体的な手技による技術、さらには患者さんとの問診により必要な情報を聞き出すことなど、救急外来からたくさんの方が学べたと思います。今後も大いに活かすことができると思います。同期の研修医の数も丁度よく、たくさんの症例を経験できました。
- 想像していた通り、診療科間の垣根が低く、全ての診療科の先生にコンサルトしやすい環境で、非常に良かったです。
- 症例数が多いこと。各診療科の先生に非常にコンサルトしやすいこと。

Q3 学生さんへのアドバイスやメッセージ

- 当院は自分自身のやる気次第でどんどん自分自身を高めていける病院だと思います。各科の先生との垣根も低く、優しく教えてくださいます。自分の気持ちを引き締め研修を行うことができる病院であり、やる気に満ち溢れている皆さん、ぜひ1度見に来てください。
- どの診療科に進む予定であっても、最初の初期研修では、ジェネラルを学べるところが良いと思います。その点でも、西市民病院はおススメです！
- 西市民病院では、やる気があればあるだけしっかり仕事ができます。救急もファーストタッチで診療するので、プライマリ・ケアがしっかり身に付きます。
- 頭と体の両方を動かす経験を十二分に積むことができた西市民病院を選択し、大変勉強になりました。

歯 科 研 修 医

Q1 西市民病院を研修先として選んだポイントは？

- 活地域病院での歯科の役割について興味があったこと
- 研修医が1人であるため早い段階から多く手を動かすことができること
- 麻酔についても学べること

Q2 西市民病院で研修して良かった点は？

- 他の診療科との垣根が低く、関わる機会が多かった点、また、病院全体が温かい環境だったので、とても働きやすかったです。

Q3 学生さんへのアドバイスやメッセージ

- 進路について迷っていたとしても、1年で濃縮された内容を経験できるため、歯科医師1年目のスタートとして非常に良く、自分のやりたいことが見つかると思います。ぜひ西市民病院で充実した研修生活を送ってください!!



令和6年度 2年次研修医



令和6年度 1年次研修医

病 院 見 学 の ご 案 内

臨床研修医を志す医学生の方々へ

当院では、医学生の方のために病院見学を随時お受けしています。
ぜひ一度、病院見学にお越しください。

- 見学は診療科ごとにお受けしますが、内科は総合内科と詳細内科（消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科）ごとになります。
- 救急部は、他科と兼務の医師が多いため、救急搬送受入れ時以外は、総合内科の見学となります。
- 診療科によっては曜日を限定させていただくこともあります。ご確認ください。

見学までの流れ

- ①見学希望診療科と希望日（第1希望から第3希望まで）を決めてメールにて連絡してください。
- ②事務局が希望診療科の医師と日程調整し決定。
事務局から決定内容を連絡すると同時に見学当日のご案内と提出書類を送付します。
- ③見学当日は必要書類を持って事務局までお越しください。

連絡先

神戸市立医療センター西市民病院 事務局総務課（病院見学担当）

T E L : 078-576-5251（代表）

F A X : 078-576-5358

E-mail : w_nishi_kengaku@kcho.jp

※ご不明な点がございましたら、Eメールでも、お電話でもお気軽にお問い合わせください。

※Eメールの場合、土日休日を除く2日以内にメール確認の返信がなければ、
お手数ですが、電話にてお問い合わせください。

地方独立行政法人神戸市民病院機構

神戸市立医療センター西市民病院

令和7年度 臨床研修医募集

令和7年度臨床研修医を下記のとおり募集いたします。

なお、当院はマッチングシステムに参加します。

記

1 募集資格

令和7年3月に大学の医学部又は医科大学を卒業見込みの者で、医師免許を取得見込みの者。

もしくは既に大学の医学部または医科大学を卒業し、医師免許を取得した者又は取得見込みの者。

2 募集人員予定

7名

3 研修期間

2か年（令和7年4月1日～令和9年3月31日）予定

4 待遇

(1) 給与 1年次例 月額約58万円（時間外、賞与を含む1年間の年俸の平均値を12で割ったもの）、通勤手当等あり、年次休暇等あり

(2) 健康保険、共済年金、雇用保険加入

(3) 宿舍あり（単身者用）※数に限りがあります

5 選考の方法

小論文、面接

6 選考試験の日時・場所

日時／第1回…令和6年8月7日(水) 午後0:30頃集合

第2回…令和6年8月14日(水) 午後0:30頃集合

場所／神戸市立医療センター西市民病院 北館3階 講義室

〔神戸市長田区一番町2丁目4番地 TEL 078-576-5251(代)〕

7 応募の手続き

(1) 下記の書類を所定の期日までに提出してください。

- ア 神戸市立医療センター西市民病院令和7年度臨床研修医申込書
- イ 大学卒業見込証明書(正本)及び成績証明書(正本)
- ウ 写真(カラー 縦4cm×横3cm)×2枚(1枚は申込書に貼付)

※写真の裏に必ず氏名を明記してください。

(2) 応募者には提出期限後、受験通知書を送付いたします。

(3) マッチング成立後、健康診断書(公的機関によるもの)を送付してください。

8 提出期限

第1回…令和6年7月17日(水)

第2回…令和6年7月26日(金)

郵送による場合 — 当日消印有効

持参による場合 — 平日のみ受付 9:00～17:00

9 提出 及び 問い合わせ先

〒653-0013 神戸市長田区一番町2丁目4番地

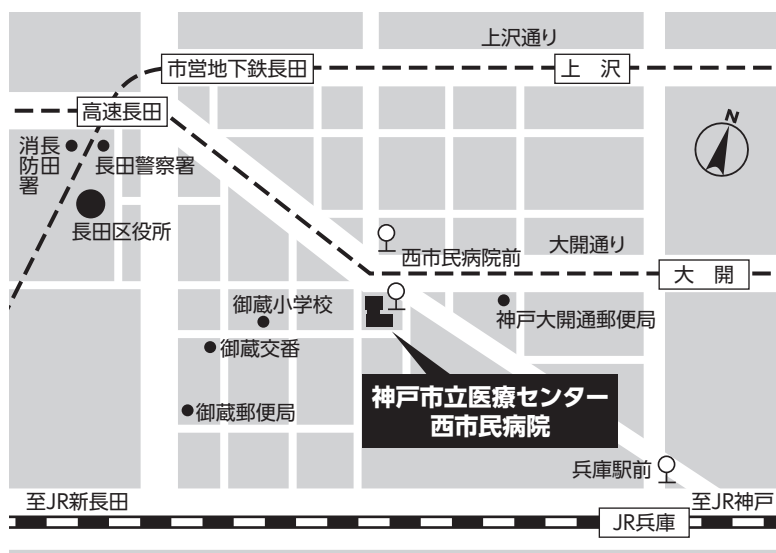
神戸市立医療センター西市民病院 総務課 総務係

TEL: 078-576-5251(代)

E-mail: w_nishi_somuka@kcho.jp

ホームページ: <http://nishi.kcho.jp/>

当院案内図



交通案内

- 市営地下鉄「長田駅(長田神社前)」、神戸高速鉄道「高速長田駅」より徒歩約8分
- JR「兵庫駅」、神戸高速鉄道「大開駅」より徒歩約10分
- 市バス④⑨⑬⑱系統「西市民病院前」下車すぐ

地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター西市民病院
令和7年度 臨床研修医申込書

令和 年 月 日

神戸市立医療センター西市民病院
病院長 中村 一郎 様

氏名 印

私はマッチングシステムに参加し、令和7年度臨床研修医に応募いたします。

希望する 選考試験日	・第1回 8月7日(水) ・第2回 8月14日(水) 希望日に○をつける		
ふりがな			写真 4cm×3cm
氏名			
生年月日	昭和 ・ 平成 年 月 日	歳	
ふりがな			
①現住所	〒		
	電話 - -		
メール アドレス	(PCのメールアドレスをご記入ください。)		
②帰省先等 の連絡先	〒		
	電話 - -		
最終大学名		卒業(見込) 年 月	令和 年 月
将来希望 診療科			
年 月	学 歴 ※ ・ 職 歴		

※学歴は高校卒業時より記入してください。

氏名

神戸市立医療センター西市民病院を希望した理由・動機

将来希望する進路

受験票の送付先希望*

①

・

②

* 試験日の1週間前に受験票の送付を予定しております。送付先として希望されるご住所（左ページ①現住所 又は ②帰省先等の連絡先）いずれかに○をお願いします。

地方独立行政法人神戸市民病院機構

神戸市立医療センター西市民病院

令和7年度 歯科臨床研修医募集

令和7年度歯科臨床研修医を下記のとおり募集いたします。

なお、当院は歯科マッチングシステムに参加します。

記

1 募集資格

令和7年3月に大学の歯学部又は歯科大学を卒業見込みの者で、医師免許を取得見込みの者。

もしくは既に大学の歯学部または歯科大学を卒業し、医師免許を取得した者又は取得見込みの者。

2 募集人員

1名

3 研修期間

2年（令和7年4月1日～令和9年3月31日）予定

4 待遇

(1) 給与 月額約42万円（時間外、賞与を含む1年間の年俸の前年度実績を12で割ったもの）、通勤手当等あり、年次休暇等あり

(2) 健康保険、共済年金、雇用保険加入

(3) 宿舎あり（単身者用）※数に限りがあります

5 選考の方法

小論文、面接

6 選考試験の日時・場所

日時／令和6年8月7日（水）午後0:30頃集合

場所／神戸市立医療センター西市民病院 北館3階 講義室

〔神戸市長田区一番町2丁目4番地 TEL 078-576-5251(代)〕

7 応募の手続き

(1) 下記の書類を所定の期日までに提出してください。

- ア 神戸市立医療センター西市民病院令和7年度歯科臨床研修医申込書
- イ 大学卒業見込証明書（正本）及び成績証明書（正本）
- ウ 写真（カラー 縦4cm×横3cm）×2枚（1枚は申込書に貼付）

※写真の裏に必ず氏名を明記してください。

(2) 応募者には提出期限後、受験通知書を送付いたします。

(3) マッチング成立後、健康診断書（公的機関によるもの）を送付してください。

8 提出期限

令和6年7月17日（水）

郵送による場合 — 当日消印有効

持参による場合 — 平日のみ受付 9:00～17:00

9 提出 及び 問い合わせ先

〒653-0013 神戸市長田区一番町2丁目4番地

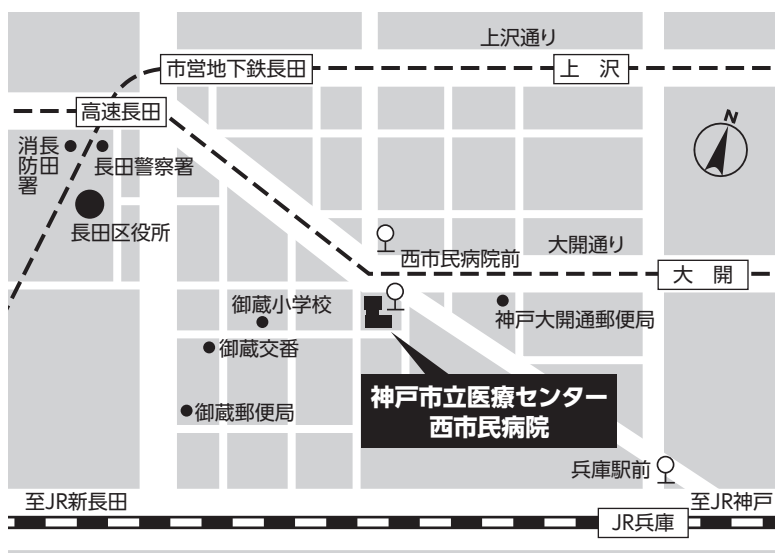
神戸市立医療センター西市民病院 総務課 総務係

TEL：078-576-5251（代）

E-mail：w_nishi_somuka@kcho.jp

ホームページ：http://nishi.kcho.jp/

当院案内図



交通案内

- 市営地下鉄「長田駅（長田神社前）」、神戸高速鉄道「高速長田駅」より徒歩約8分
- JR「兵庫駅」、神戸高速鉄道「大開駅」より徒歩約10分
- 市バス④⑨⑬⑧系統「西市民病院前」下車すぐ

地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸市立医療センター西市民病院

令和7年度 歯科臨床研修医申込書

令和 年 月 日

神戸市立医療センター西市民病院
病院長 中村 一郎 様

氏名 印

私は歯科マッチングシステムに参加し、令和7年度歯科臨床研修医に応募いたします。

ふりがな				写真 4cm×3cm
氏名				
生年月日	昭和 ・ 平成 年 月 日	歳		
ふりがな				
①現住所	〒 電話 - -			
メールアドレス	(PCのメールアドレスをご記入ください。)			
②帰省先等の連絡先	〒 電話 - -			
最終大学名		卒業(見込) 年 月	令和 年 月	
年 月	学 歴 ※ ・ 職 歴			

※学歴は高校卒業時より記入してください。

氏名

神戸市立医療センター西市民病院を希望した理由・動機

将来希望する進路

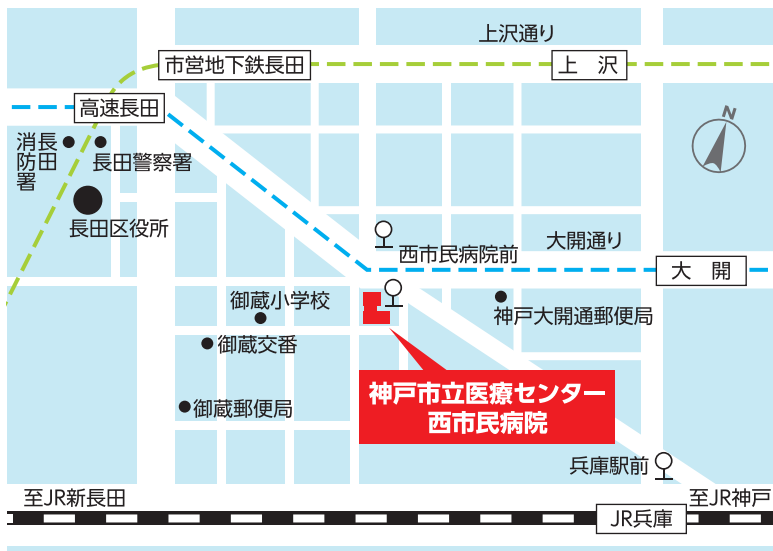
受験票の送付先希望*

①

・

②

* 試験日の1週間前に受験票の送付を予定しております。送付先として希望されるご住所（左ページ①現住所 又は ②帰省先等の連絡先）いずれかに○をお願いします。



交通案内

- 市営地下鉄「長田駅(長田神社前)」、
神戸高速鉄道「高速長田駅」より徒歩約8分
- JR「兵庫駅」、神戸高速鉄道「大開駅」より徒歩約10分
- 市バス④⑨⑬⑱系統「西市民病院前」下車すぐ

地方独立行政法人神戸市民病院機構

神戸市立医療センター 西市民病院

〒653-0013

神戸市長田区一番町2丁目4番地

Tel 078-576-5251

Fax 078-576-5358

<http://nishi.kcho.jp>

E-mail w_nishi_somuka@kcho.jp

お問合せ先：総務課総務係